

ソフトウェア キーボードウェッジ RS-receiver Lite V4.0 を開発。
操作性が向上し、機能を大幅に追加、5 月より販売開始。

自動認識システム開発のアイニックス株式会社（東京都目黒区大橋 1-6-2 電話 03-5728-7500 代表取締役 平本純也）は、ソフトウェア キーボードウェッジ RS-receiver Lite V4.0 を開発し、5 月より販売開始します。RS-receiver Lite は、バーコードリーダーや RFID リーダ等のシリアルデータをアクティブ画面へ簡単に入力できるソフトウェアです。Windows 7 / 8.1 / 10 に対応しています。バージョン 4.0 では、GUI を変更し、操作性が向上した他、データ編集機能や入出力機能を大幅に強化しました。

RS-receiver Lite は、RS232C や USB シリアル等のシリアルデータを取り込み、キーボード入力と同じようにアクティブ画面のカーソル位置に表示することができるデータ入力・編集ソフトウェアです。アクティブ画面への出力は、一般的な Sendkeys ステートメントの他に、「キャラクタ モード」と「バーチャルキー モード」をサポートしています。「キャラクタ モード」は文字を直接アプリケーションに送信しますので、制御コードもデータとして入力することができます。また、「バーチャルキー モード」では、キーを押す、放すといったイベントも含めてアプリケーションに送信しますので、キーボードと同様の動きで TAB 等のキーを入力できます。

RS-receiver Lite は、入力されたデータの編集機能も豊富に備えています。不必要な文字列を削除する機能、任意の文字列を付加する機能、特定の文字列を切り取り、あるいは別の文字列に置き換える機能に加え、バージョン 4.0 では GS1 アプリケーション識別子でデータを分解し、抽出する機能が新たに追加されました。また、削除機能にプレビューを搭載しましたので、実際のデータで確認しながら設定を行うことができます。

アクティブ画面へのデータの出力では、出力先の環境によって発生し得る桁落ちを防止するため、「キャラクタ間ディレイ」と「データ間ディレイ」を設定することができるようになりました。また、出力データを LAN のソケット通信によりサーバや特定の PC に送信する機能も追加しましたので、ネットワークによるデータ収集が可能です。

入出力データは、RS-receiver Lite のアプリケーションウィンドウにテキスト形式とヘキサ形式で表示することができるため、簡易なラインモニターとしても利用することが可能です。バージョン 4.0 では、表示されたテキスト、あるいはヘキサコードの一部を選択すると、もう一方の対応する範囲も選択表示されるようになりました。また、出力データをファイルに保存することもできますので、簡易なデータロガーとしても利用可能です。

これまでの RS-receiver Lite では、複数のデバイスを接続する場合、アプリケーションを複数起動する必要がありました。しかし、バージョン 4.0 では、複数 COM ポートの入力に対応しましたので、アプリケーションを複数立ち上げることなく、最大 5 台までのデバイスと接続することができます。その際、入出力やデータ編集の設定は、デバイス毎に設定することが可能です。また、入力の文字コードは従来の Shift-JIS に加えて UTF-8、UTF-16 Little Endian、UTF-16 Big Endian にも対応しましたので、OS やアプリケーションに合わせた文字コードを選択できます。

RS-receiver Lite V4.0 の標準価格は、1 ライセンス 12,000 円(税別)です。従来のバージョン 3.0 をお持ちのユーザに対しては、バージョンアップサービスを 6,000 円(税別)で提供します。初年度 1,000 ライセンスの販売を計画しています。

